

仮設住宅入居者を訪問

買い物が大変、出張販売？ 皆と知り合いたい



5月5日、奈良県立大学講師：古川周太郎氏、立教大学講師：清野隆氏が仮設住宅を訪問し、間取りや入居者とお話し合いを行いたいとの要望があり、気仙市民復興連絡会の岩城会長が、旧県立病院跡地の仮設住宅に入居した、及川勇徳さん宅と山本トミ子さん・芳人さん宅を案内した。

仮設住宅については、雨が降れば2～3日雨だれが切れず、玄関からの出

入りが大変である。隣との仕切りがベニヤ1枚で音が遮断されない。押入れを仕切りにすれば大分違うのではないか。日常生活については、買い物が大変であり、近くに商店が開店するか、週2回ほどの出張販売があればよい。また、挨拶しても挨拶を返さない人もあり、早く知り合いになる方法も必要である等々、大変貴重なお話を聴くことが出来た。



盛川河川敷清掃3日間



大船渡市社協が呼びかけた盛川河川敷の大清掃作戦は、5月3日～5日までの3日間行った。このボランティアには3日300人、4日150人、5日200人が市内外から集まった。札幌市から来た山本幹さん（36才）は、「ネットで調べて来たが被災地を見て言葉を失った」。また、大分県から来た園田剛司さん（37才）は、「7年前に平泉や遠野市に来たことも

あり、義捐金だけでなく何か出来ないか考え、連休を使ってボランティアに来た。被害のひどいことに驚いた。みんなと話が出来てよかった」。

気仙市民復興連絡会は、盛川河川敷清掃の後押しとして、社協からの要望もあり、大清掃作戦に炊き出しを行い、ボランティアの方々の交流を支援できた。



写真を展示して お返し

6日：大船渡中学校体育館避難場所

7日：大船渡地区公民館

5月6日は大船渡中学校体育館避難場所での展示、7日は大船渡地区公民館での展示にて持ち主へお返ししたいとの願いで行う。

8日～10日は福祉の里センター

9：30～15：30



5月5日、社協から3名の方々がボランティアとしてご協力を頂きました。



さらに、探し出した写真をお持ちの団体や個人の方もおりますので、一同に展示して、皆に見て頂き、1枚でも多く関係者にお返しする方法として、福祉の里センターの野外イベント広場に展示することにしました。

探し出した写真をお持ちの方、福祉の里センターと一緒に展示しませんか。そして、持ち主や知人へお返ししましょう。

「津波記念建築物」を指定し、後世へ保存したい

広島市には「原爆ドーム」が保存されているように、大船渡市でもこの巨大津波の教訓を後世に伝えるために、被害を受けた建築物を「津波記念建築物」として、土地を買収して保存したい。

その買収費や今後の保存の経費を、全国から募金してはどうだろう。写真や映像でも保存するであろうが、建築物であれば「生きた教材であり眼に訴えるチカラは抜群」である。このことについても関心ある方の相談会が欲しいものである。

隣の陸前高田市では、松原に残った1本の松の保存が話題となっているが、大船渡市では、津波記念建築物の保存について検討してはどうだろうか。



津波被害状況 左は陸前高田市小友駅前



右は大船渡市魚市場前、屋根にトラックが2台